

庄園絵図の里 日根野

泉佐野駅から犬鳴温泉方面へバスで約15分。東上のバス停で下ると、そこは中世荘園・日根荘日根野村の故地です。

もともと古代の日根野は荒野でした。ここに日根野村が生まれたのは鎌倉時代のことです。日根荘が立てられた天福2(1234)年、日根野村には現在の尼津池・八重治池などたくさん池が築かれ、水田が開かれました。

中世の日根野村の姿を描いた絵図が、正和5(1316)年の「日根野村荒野開発絵図」です。大井関大明神(日根神社)・溝口大明神・無辺光院・八王子・丹生大明神などの寺社が建てられています。日根野村には広い荒野が残る。延慶3(1310)年には僧の実専が、正和5(1316)年には久米田寺が開発を請け負います。

しかし開発や耕作を支えたのは、荒野に入植した「新開御領百姓等」つまり日根野村の農民でした。特に樫井川から水を引く井川の水路が築かれ、開発が進みました。永享3(1431)年ごろまでには井川が十二谷池となつたり、室野後期(1400年代後期)にはもとの荒野に西上などの新たな集落が生まれました。

文亀元(1501)年、九条政基が日根荘に下向すると日根野村は東方と西方に区分されます。日根野村は絶えず守護の軍勢に攻められますが、番頭や古老を中心に団結し、「クミノ郷」とよばれる周辺の村とも連合して村を守りました。

なお日根野村の武士日根野氏からは、日根野弘就が出て、織田信長・豊臣秀吉に仕えて大名に出世しました。弘就は「日根野兜」をつくった人物です。

日根野散策モデルコース

日根野地区では⑩慈眼院・⑪日根神社のエリアが一番のポイント。東上バス停で下車して日根神社・慈眼院を散策し、④井川の水路にそって進むのがベストコース。井川ぞいを歩く道すがら、東の丘陵に尼津池・八重治池がみえます。ゴールは十二谷池。ここから日根野駅まで徒歩10分。途中の牛神からまっすぐ進めば粉河道。東に曲がれば水間道。歴史の道も散策できます。

東上バス停→⑪日根神社→⑩慈眼院→④井川→(井川ぞいに歩く)→⑨八王寺跡→⑧総福寺天満宮→⑥野々宮跡→(水間道の道標)→牛神→⑪十二谷池→日根野駅



空からみた日根野地区(平成6年撮影)

土丸散策モデルコース

土丸を一周するには日根神社から井川ぞいを歩いてはいかが。主な寺社や伝橋本正督墓地进行できます。土丸・雨山城は上り坂が急で危険です。くれぐれもご注意ください。

東上バス停→⑪日根神社→④井川→(井川ぞいに歩く)→⑩伝橋本正督墓地→⑬蓮華寺→⑭極楽寺→⑮土丸春日神社→土丸バス停

「日根野村荒野開発絵図」と日根荘遺跡

正和5(1316)年に描かれたこの絵図は、鎌倉時代の荘園の絵図として有名です。当時の日根野村の姿がよくわかります。

絵図は東を上にし、上側(東)は水田や集落の様子を描き、下側(西)は緑色で荒野を描きます。開発の進んでいる区域と荒野を書き分けています。

絵図の大井関大明神は現在の日根神社です。溝口大明神は現在の比売神社(日根神社境内の社)、丹生大明神は現在の野々宮跡です。また甘漬池・八重池・住持谷池はそれぞれ現在の尼津池・八重治池・十二谷池です。絵図にみえる神社や池が現在もたくさん残っています。

無辺光院は、日根荘の政所(役所)があった寺院です。現存しませんが、字「寺山」「大門之上」の付近と考えられます。無辺光院の惣門は日根野小学校の付近と思われます。白水池は日根野駅前にもありました。



日根野村荒野開発絵図 部分(宮内庁書陵部蔵)※番付は日根野地区の地図の道跡の番号と同じです

日根荘をもっと知るために

歴史館いすみさの

日根荘の歴史を常設展示のテーマとする「荘園博物館」。日根野村荒野開発絵図や「政基公旅引付」(複製)をはじめ、日根荘にちなむ歴史資料を展示しています。日根荘を復元した模型と演出ナレーションで、日根荘の世界にひたってはいかが。日根荘の調査研究や資料・情報の収集も行っています。日根荘を知りたい方、是非ご来館ください。

*月曜・祝日の翌日は休館、入館は9時から5時まで(観覧無料) Tel 072-469-7140 Fax 072-469-7141

歴史館へのアクセス

徒歩: 南海泉佐野駅から約15分、JR日根野駅から約20分
バス: 南海泉佐野駅から「泉佐野市役所前」バス停下車、徒歩約3分
JR日根野駅から「市場」バス停下車、徒歩約5分



日根野駅の全体が説明板にあります



白水池は日根野村荒野開発絵図にみえますが、現在はありません

⑪十二谷池 市の浄水場のとなりにある池です。日根野村荒野開発絵図に「住持谷池」とある池です。井川から水をこめています。寛政1(1441)年には十二谷下池も築かれました。十二谷池・八重治池・尼津池・大池の説明板があります。

日根荘のため池の説明板があります



和歌山県の粉河寺につづる道です。不動明王を本尊とする大仏堂に近く道でもあり、不動堂といわれます



⑧総福寺天満宮 九条家が支配した室町時代、日根野村に天満宮がありました。現在の天満宮本殿は戦国時代の天正4(1576)年の創建とされ、重要文化財です。



5月5日の日根神社のまくら祭りの日に神輿が通る道です



⑨八王寺跡

日根野村荒野開発絵図にみえる「八王子の跡」です。すぐ近くを井川が通ります。井川をはさんだ高台上、無辺光院(日根荘の政所がおかれた寺院)があったと推定されています。八王寺跡から出た石塔を歴史館で展示しています。



⑪日根神社

中世には和泉国五社のひとつで「土丸神社」とよばれました。日根荘全体の神社でもありました。旅引付によると祭礼は4月2日で猿楽や弓矢の神事がありました。境内には比売神社や野々(丹生大明神)もあり、井川も境内を流れ、日根荘遺跡の宝庫となっています。



⑫伝橋本正督墓地

土丸城主だった橋本一族の橋本正督をまつた墓と伝えられます。正督は土丸城を奪い返そうとして室町幕府守護の山名氏と戦い、康暦2(1380)年に戦死しました。ここには中世から江戸時代の石造物がたくさん残ります。



野外博物館「日根荘遺跡」ウォーキングマップ

日根野・土丸地区

●⑪十二谷池

●②八重治池

●③尼津池

●④井川

●⑥野々宮跡

●⑧総福寺天満宮

●⑨八王寺跡

●⑩慈眼院

●⑬蓮華寺

●⑭極楽寺

●⑮土丸春日神社

●⑦大池

●④井川(取水口)

●③伝橋本正督墓地

●②八重治池

●①十二谷池

●④井川

●⑥野々宮跡

●⑧総福寺天満宮

●⑨八王寺跡

●⑪日根神社

泉佐野市作製地図(昭和59年測量 成5年修正、1:2,500)を縮小



②八重治池 日根野村荒野開発絵図に「八重池」とある池です。水間寺(貝塚市)に面する水間道を通って熊取町に向かうところがあります。また付近を、大木・日根野・佐野をつなぐ大木道という旧道があり、今も農道として残っています。



④井川 日根野で最も重要な水路です。樫井川から水を引く水路で、取り入れ口は土丸にあります。日根神社と慈眼院の境内を通り、八王寺跡・野々宮跡など絵図に描かれた寺社の近くを流れ、十二谷池に水を送ります。取り入れ口から終着点まで歩くことができます。



③尼津池 日根野村荒野開発絵図に「甘漬池」とある池です。より高い段の水田をかんがいする池です。中世のころは日根野村でもっとも重要な池だったようです。井川を歩くと、尼津池からの水路が井川に流れこむ様子がわかります。



⑤新道出の牛神 牛神は農耕に使役する牛の神です。七夕の日牛を連れてお参りし、牛神祭りを行いました。日根野村荒野開発絵図にも「牛神松」がみえます。日根野では西出の牛神や井川ぞいの牛神があります。泉南地区には牛神が残っています。



⑥野々宮跡 日根野村荒野開発絵図にみえる「丹生大明神」です。野々宮は日根野の氏神で、村人の品産があります。現在は日根神社境内に移され、もとの場所に記念碑があります。ももとの境内は井川そいまで広がっていました。



⑦大池 江戸時代に築かれた池です。雨山溝から水を引き入れ、大池・尼津池・八重治池・十二谷池は水路でつながっています。大池の近くを粉河道が土丸へ通ります。大池の先にみえる二つの山に、土丸・雨山城があります。

凡 例	
●	国史館指定地
●	国史館以外の史跡
—	池・川
—	井川(国史跡)
—	古道
—	ウォーキングコース
●	バス停
■	境内の範囲
□	案内版
—	道標など
—	橋
---	市町村境



成5年修正、1:2,500)を縮小